

令和2年度 上田市立菅平中学校 グランドデザイン

めざす子どもの姿

- ①「自立・自律」自ら考え、判断し、行動し、責任のとれる子ども
- ②多様性を受け入れ、他の人を尊重しながら自己表現することができる子ども
- ③体験を通して心身を鍛える子ども
- ④郷土に誇りをもち、郷土を愛する子ども

学校教育目標

郷土を拓く大地の教育

《共生》 《自立・自律》 《創造》

めざす教師像

- ①子どもの自立・自律のために、支援を惜しまない教師
- ②目的と手段を吟味できる教師
- ③多様性を認め、多様性を包み込み、多様性に応じた指導・支援ができる教師
- ③子どもと共に汗を流す教師
- ④地域に根ざし、地域と連携する教師

本年度の重点目標

(1) 多様性を認め、多様性を包み込む集団づくり

- ①「失敗しても大丈夫」「失敗することが大事」を基本に、誰もが安心できる環境づくり
- ②多様性を受け入れ、他の人を尊重しながら自己表現ができる集団づくり
- ③教師自らが子どもの良さに気づき、他人との比較をせず、認め、広め、プロセスを褒める

(2) 一人ひとりが目的意識をもち、自分なりの学び方を身につける子どもの育成

(全校研究テーマ)

- ①常にPDCAサイクルで授業改善を行い、自立・自律につながる単元・授業の構想
- ②めりはりのある単元展開・授業展開
- ③自分を素直に表出し、主体的で対話的で深い、協働的な学習

(3) 菅平の産業に学び、郷土に生きる人材を育てる

- ①この地に生きることの喜びを実感するために、地域との交流、体験を構想
- ②総合的な学習の時間やキャリア教育を通して、地域の農産業や観光産業を知る
- ③地域に学び、地域で学び、菅平の未来を創造できるようにする

道徳教育指導の重点

全校道徳を取り入れて、価値観の違いに触れ、多面的・多角的視点を涵養するため、題材や場面の工夫をし、考え議論する道徳を行う。
友だちの姿に道徳的価値を見だし、共に認め合えるための指導。

異年齢集団による活動

朝や帰りの学活、道徳等、学年の枠を超えて、全校で活動することを通して、多様な考え方や価値観に触れたり、自己理解を深めたりする。

総合的な学習の時間の重点

体験活動を多く取り入れ、探究的な学習を通して問題解決を図れる場を設定し、友だちと考えを話し合っ、共に追究していこうとする態度を養う。

人権同和教育指導の重点

研修を通して職員自身の人権感覚を高め、子どもの心に迫る指導の研究を深める。
参加型体験学習を取り入れ、お互いに認め合い解決の方向が見える明るい人権同和教育を進める。

生活・生徒指導の重点

子どもの自立・自律をめざし、小中併設校や少人数集団であることの利点を生かし、一人一人の子どもについて、全職員が理解し、9年間を見通した指導・支援を行い、一人一人の個性の伸長を図る。

特色ある教育課程

スキー科 地域の特性を生かし、「めあてをもち継続して取り組む」「達成感や充実感を感じて取り組む」「感謝の気持ちを持ち、マナーを守り、実践する」ことを通して、心身ともに健全でたくましい子どもを育てる。
英会話科 英語でのコミュニケーション活動の楽しさを体験し、言葉や文化に対する興味関心を高める。

特別支援教育指導の重点

一人一人の特性や教育的ニーズを全職員で共通理解し、保護者や関係機関と連携して、その子に適した指導を行う。
個別の指導計画に基づく教育的支援を行う。

全職員で全校生徒と関わる

生徒の自立・自律をめざすことを共通基盤として、全職員で全校の生徒と関わり、指導・支援を行っていく。「生徒指導チーム」「進路指導チーム」「学年担当」等の窓口も増やし、相談しやすい環境を整備する。

特別活動指導の重点

目的意識をもち、主体的に活動できる機会とし、内容等の見直しをしながら、活発な活動となるようにし、生徒による生徒会となるようにする。

子ども理解

本校の強みと課題

- 1 開拓の歴史に立脚した農業と観光という独自性のある地域
- 2 厳しさと豊かさを併せ持った大自然に囲まれた環境
- 3 少人数学習集団（気心の知れた仲間⇔固定化された人間関係）
- 4 小中連携による9年間を見通した教育活動
- 5 学校への協力を惜しまない、保護者・地域（信州型CS「TEAM SUGADAIRA」）